

令和5年度（2023年度） 古賀市立小野小学校 学校経営要綱

校長 大住奈留美

I 学校経営の基本構想

(1) 学校経営の基本や基盤

① 公教育としての基盤に立つ学校

- 日本国憲法を基に、教育基本法や学校教育法をはじめとする関係諸法規、学習指導要領によって公教育を行う。
- 福岡県教育施策及び古賀市教育行政の目標と主要施策に則り、児童や保護者、地域及び学校の実態に即して行う。
- 福岡県人権教育・啓発基本指針、学校教育における在日外国人の人権に関する指導上の指針、古賀市人権施策基本指針に基づいて人権教育を推進する。

② コロナ禍、Society5.0時代の到来等、急激な社会状況の変化に応える学校

- 子どもが自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となりうる資質・能力を育成する。

③ 地域や保護者の願いに応え、活力と創意にあふれた「地域とともにある学校」

- 緊密な関係にある PTCA を活用した運営を推進する学校
- 社会の変化と地域力を教育課程編成につなぎ、社会に開かれた教育課程の実現に努める学校。
- 開校150年目にあたっては、さらに地域に貢献し、地域を生かし、地域とともに成長する、古賀のコミュニティ・スクールをめざし、小野校区運営協議会を核とした「野幸山幸おのまつり」「150周年記念行事」等、伝統の継承と新たな創造に努める学校。

(2) 学校の教育目標

ふるさと小野を愛し、確かな学力と人間関係力を身に付けた
たくましい子どもの育成

【学校の教育目標に対する校長見解】

① 「ふるさと小野を愛し」とは

地域の一員として、自分の住む小野校区のひと・もの・ことに愛着を感じるとともに、「自助・共助」の精神で、持続可能な社会の創り手として、地域に参画したり貢献したりする意欲をもつこと。

② 「確かな学力」とは

教え込みによって獲得される知識の総体ではなく、令和の日本型学校教育の中で子どもが自ら学び取ろう（チャレンジしよう・じっくり学ぼう・自分で試行錯誤しよう）とすることによって得られた、簡単には剥落しない知識・理解、思考力・判断力・表現力のこと。

③ 「人間関係力」とは

さまざまな集団において主体的に相手と関わりコミュニケーションを取る中で、自他を尊重し、望ましい選択・意思決定を行い、よりよい関係を構築しようとする資質・能力のこと。

④ 「たくましい子ども」とは

未知の状況に対応し、困難なことに挑戦する意欲をもち、健全な身体と発想を主体的に選択し、心身ともに成長し続ける子どものこと。

(3) 本校の教育課題と経営課題

① 教育課題【本年度、特に育てたい児童の資質・能力、態度】

ア 学習意欲の向上と基礎基本の確実な定着

- 学習規律と学欲の向上、自尊感情の豊かな醸成
- 協働的な学びの体験と視点の多様化から得られる、高揚感や満足感の感受

イ 規範意識に根差した人間関係力の育成

- 他者を受容するコミュニケーションスキルの醸成
- 言語環境も含めた、音のコントロールによる情動の安定

ウ 健康意識の向上と自己管理能力の育成

- 「歩いて登校」等、日常的な運動習慣づけ
- テクノロジーとの「接触・遊び」の時間や睡眠時間のコントロール

② 経営課題

ア 教職員

- ・ 学ぶ意欲の向上に向けた取組の強化と ICT を活用した授業改善の日常化
- ・ 児童のニーズと困り感を感じ、学びの個別最適化にチャレンジする教師集団
- ・ 教師の指導言や児童の言語環境等、音のコントロールを中心とした課題予防的な生徒指導の充実

イ 組織

- ・ 全校の取組が、どの教室、どの教職員にも日常的に実践されるシステムの構築と協働性、同僚性
- ・ 健全な身体と発想に繋がる主体的・日常的な運動習慣の構築とシステムづくり
- ・ 働き方改革に則った、会議の整理と分掌のチーム化・機能化・活性化

ウ 家庭・地域

- ・ 自己管理能力を育てる「小野っ子健康プロジェクト」の働きかけ
- ・ キャリア教育に視点を置いた望ましい生活習慣の獲得に向けた協働の取組
- ・ 家庭・地域への生徒指導理念の共有化と、発達支援的生徒指導の伝達と啓発

(4) 具体目標

① 目指す子ども像【教職員評価、児童評価、保護者評価、地域評価 3.2P 以上】

ア 自分を信じて学習に粘り強く取り組む子ども【がんばりの種】

- ・ なりたい自分を描き、信じてあきらめずに努力する子
- ・ 自分と友達の考えを大切に、共に学ぶよさを味わう子

イ 自身を見つめ相手を思いやる子ども【なかよしの種】

- ・ 自身の心を見つめ他者の考えを受容して、よりよい関係をつくる子
- ・ 言語環境に気を付けて、適切に意思表示ができる子

ウ 自ら進んで運動や遊びをし、心と体を鍛える子ども【けんこうの種】

- ・ 学校、家庭、地域で安全に過ごす子ども
- ・ 歩いて登校し、進んで外遊びをする子ども
- ・ あいさつができ、早寝・早起きをして、登校時間を守る子

② 目指す学校像【教職員評価 3.2P以上】

- ア 子どもが明るく楽しく安心して活躍できる学校
 - ・危機管理の徹底と、いじめ・不登校の早期発見と早期解決を図る学校
 - ・生徒指導の考えを教職員と家庭が共有し、家庭への寄り添いと協働がある学校
- イ 環境が整い、活気があって美しい学校
 - ・学びの場の清掃や整頓が行き届き、シンプル・クリアな掲示物で、生活意欲や学習意欲が喚起される学校
 - ・音のコントロールができ、挨拶や遊びや歩行に、明るさと安心感がある学校
- ウ 保護者・地域に信頼され、愛される学校
 - ・社会に開かれた教育課程において、地域や家庭と連携し、地域のよさを生かしたり貢献したりする学びの実践がある学校

③ 目指す教師像【教職員評価 3.2P以上】

- 高い倫理観と強い規範意識、教育専門職としての誇りと自覚を維持する教師
- 健康で明るく、人権感覚を磨き、頼りがいのある教師
- 自己研鑽に励み、教育目標の具現化に向け、連携・協働する教師

2 本年度の重点

(1) 本年度の重点目標

**音のコントロールをしながら「学びの場」を整え、
協働して3つの種を育てる子どもの育成**

育てたい3つの種

【がんばりの種】	【なかよしの種】	【けんこうの種】
自分を信じて学習に粘り 強く取り組む子ども	自身を見つめ 相手を思いやる子ども	自ら進んで運動や遊びをし、 心と体を鍛える子ども
評価指標 ・なりたい自分を描き信じて 努力する子 ・自分と友達の考えを大切に し、共に学ぶよさを味わう子	評価指標 ・自身の心を見つめ他者の考 えを受容して、よりよい関 係をつくる子 ・言語環境に気を付けて、適 切に意思表示ができる子	評価指標 ・学校、家庭、地域で安全に過ごす子ども ・歩いて登校し進んで外遊びをする子ども ・あいさつができ、早寝・早起きをして 登校時間を守る子
いずれも 3.2P以上	いずれも 3.2P以上	いずれも 3.2P以上

【本年度の重点目標に対する校長見解】

令和2年度から2年が経過し、コロナ禍で明らかとなった学校の教育活動全般のよさと課題について未来志向で整理し、新しいスタンダードを創出しようとしている。

特に、これまで当たり前にとらえ取り組んできたことを根底から見直し、縮小・削減をも思い切って行ってきた。中でも、「日常」こそ教師の実践の継続と蓄積の「学び場」としてとらえ、「仮説検証型」から、子どもの学びを見取り目指す子ども像に立ち返りながら対話リフレクションを重ねる「仮説生成型」に舵を切っている。

このような主体的で創造的な教師自身の学びの構築こそが、子どもの目的意識と課題に寄り添い、観察と機会を丁寧に刻み、誰一人として取りこぼさない柔軟性と寛容性のある支援の連続につながるものと考えます。

やがて子ども自身が「なりたい自分」を描き、やりやすい方法等を自己選択・自己決定し、じっくりと自身で切磋琢磨することで、「させられ」感から脱却し、剥がれない学欲とキャリア意識※を備え、上記3つの種を育みながら自己実現に向かうと考える。

※キャリア意識・・・人生における多様な役割に対する関心や態度

(2) 重点目標達成のための経営の重点

【1 学欲向上に視点を置いたがんばりの種の育成】

「知力」分掌チームスローガン

子どもも大人も「学びの楽しさ」を味わおう！
～合い言葉は、「何のため？」～

① 学力向上プランの具現化

- ・授業づくり、学力基盤づくり、教員の指導力の向上、家庭との連携による家庭学習の定着等を通して、短期・中期目標・指標達成をめざす
⇒標準学力調査における2年生以上の標準スコア経年比(同一集団)で前年度維持または上回る
⇒質問紙等における「家庭学習をしない」または「あまりしない」6年生の割合20%以下に

② 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた日々の授業改善

- ・子どもによる自己選択・自己決定の場を意識し、自信を構築する授業づくり
- ・子ども同士の協働的な学びを意識した授業づくり
- ・主眼とめあてとまとめの整合を意識した授業づくり
- ・シンプル・クリア・ビジュアル・シェアを意識した授業づくり
⇒週案割り当て週に全員提出 管理職によるコメント毎回
- ・一人一台パソコン端末や電子黒板等の日常的な活用による授業づくり
⇒電子黒板の活用率80%以上 一人一台パソコン使用毎日1回以上
- ・子ども自身が自分のことばで、まとめや振り返りをする授業づくり

③ 効果的な指導の工夫による学力の確実な定着

- ・個の実態に応じ、自己選択・自己決定の場がある少人数指導の工夫
⇒全学年、学期に1回以上実施
- ・ユニバーサルデザインの授業規律(音のコントロール・指導言のコントロール)による学びの場づくりの継続指導と、効果的な学習指導の基礎基本をおさえた日々の授業改善

【2 自己受容・他者受容に視点を置いたなかよしの種の育成】

「心力」分掌チームスローガン

「音のコントロール」～学びの場をつくる～

① 自主的、実践的態度を育てる学級活動、児童会活動の充実

- ・子どもの課題意識を生かした学級活動の計画的な実施
- ・児童会活動の月のねらいの焦点化と統合化
- ・自己分析・自己選択・自己決定の上の遂行と達成感の享受による自治の充実

② 目指す子どもの姿を行動目標で表す学級目標の設定

- ・「3つの種」を学級目標に具体化して掲示(シンプル・クリア・ビジュアル)

・音のコントロールを通した「学びの場（静）」創り

- ③ 「立ち止まってあいさつ」と「黙働」定着のための取組の徹底
- ・児童会と協働する、足裏を意識した生活、歩行の注意といった生活規律の継続指導
 - ・「歩いて登校 遅刻0 あいさつ運動」による自主性の育成
⇒「おのっこほたりん」の幟旗を活用した年間2回の実施⇒出席扱い0の子どもを0に
- ④ 人権尊重の視点に立った授業づくりと人間関係づくり
- ・新型コロナウイルス感染症関係者への不当な差別、いやがらせ、誹謗中傷等の未然防止（動作化による啓発）と早期発見・早期対応の徹底
 - ・子どもの前に立つ教師として人権感覚を磨く日常的な研修の継続
 - ・教師も子ども同士も名前を呼び捨てにせず人権を尊重する態度の徹底
 - ・一般研修を活用した人権教育
 - ・人権教育副読本「いのちのノート」の有効活用（道徳や学級活動等）
⇒「こころ・人権の日」における全学級授業公開
 - ・いじめの未然防止と早期発見・早期対応の徹底
⇒いじめを見逃さず、認知案件100%対応、月例報告「いじめの認知数0」の月なし
- ⑤ 特別支援教育の充実
- ・個別の教育支援計画・個別の指導計画の作成付加・修正
 - ・通常の学級に在籍する特別な支援が必要な子どもへの支援体制の充実
 - ・時制の整理と円滑な実施、目標設定ときめ細やかな見取り
 - ・特別支援学級担任と通常学級担任、市特別支援教育相談室主任相談員との連携強化
⇒特別支援教育コーディネーターを中心に、「のびっこ学級チーム会議」を水曜日実施
- ⑥ 令和3年度文部科学大臣表彰に輝いた読書活動の推進
- ・朝読書の効果的実施、読書週間の充実
 - ・読書ボランティア等、地域ボランティアの活用

【3 心と体を鍛える視点のけんこうの種の育成】

「体力」分掌チームスローガン

体を「守る」「つくる」「きたえる」

- ① 体力向上プランの組織的運営
- ・子どもの挑戦意欲を高めるスポーツ大会の工夫と持久走記録会の実施
⇒「スポーツ大会や持久走記録会に向け、自ら進んで練習に取り組むことができたか」が、4段階評価で3.2以上
 - ・日常生活で鍛える「体カテストチャレンジ週間」の実施
- ② 体育科の授業の充実
- ・運動量を保障する授業の展開
 - ・課題克服を取り入れた「ウォーミングアップ運動」の実施
 - ・カリキュラムに編成するスポーツ大会の適正化
- 体育の授業としての大縄大会
委員会イベントとしての短縄大会
- ③ 学校保健優良学校特別優秀賞、県医師会による学校保健模範校として表彰された「小野っ子健康プロジェクト」（令和2年度文部科学大臣表彰、令和3年度県教委公立学校優秀校表彰、令和元年度の医師会）の深化・発展
- ・福岡女学院看護大学、古賀市健康介護課との連携

- ・保健学習プログラムのカリキュラム改善とコロナ禍の効果的実施による健康づくりに向けた自己管理能力の育成
- ・「歩いて登校 遅刻0 あいさつ運動」の効果的実施
⇒「遅刻をせずに歩いて登校することができたか」が、4段階評価で3.2以上
- ・感染症防止に向けた危機管理の徹底

【地域連携・その他の視点から】

- ①小野校区運営協議会、PTCAとの連携推進
 - ・地域や家庭と学校とがパートナーとして一体となり子どもの成長を支える
 - ・学校経営要綱の共通理解に向けた説明と実施報告の工夫
 - ・「野幸山幸大運動会」における運営の縮小化に関する連携
 - ・小野校区運営協議会と連動した「野幸山幸おのみつり」「150周年記念行事」の創出
 - ・小野校区運営協議会と協働する「かえる会」「引き渡し訓練」
- ②特別活動、総合的な学習の時間を活用したSDGS、社会に開かれた教育課程の工夫（「今、私たちにできること」ふるさと小野のよさの実感と発信）
 - ・1年生のSDGS：「生活習慣と地域のつながり」校区見守り隊等との交流、校区探検
 - ・2年生のSDGS：給食センターを活用した食育
 - ・3年生のSDGS：人権擁護委員の支援による「人権の花運動」の実施
 - ・4年生のSDGS：「米多比川と竹林の保護」、ホテルの会支援によるホテル飼育・放流
 - ・5年生のSDGS：地域の農家の支援による小野っ子米の田植え・収穫・もちつき
 - ・5年生のSDGS：LGBTQに関する課題、ジェンダー平等
 - ・6年生のSDGS：「(仮)ナガサキ平和への祈り」
 - ・市が誇る船原古墳の歴史に学びロマンを想像する活動
 - ・交通安全協会と協働する「交通安全運動」の実施
 - ・青少年赤十字JRC (Junior Red Cross)、日本防災士会と協働する防災・減災教育の実施
- ③働き方改革による勤務時間縮減の取組推進
 - ・定時退校日・学校閉庁時刻の徹底（19時に全員退校）
 - ・職員会議の大幅削減
 - ・会議の整理と校務分掌組織のチーム化・機能化・活性化
 - ・週時制の調整（基本的に、週5時間を週4日設定）
 - ・超過勤務時間：月55時間以内の徹底（R4：65時間、R6：45時間以内）
 - ・英語専科教員による高学年外国語科授業の実施
 - ・学年内交換授業による一部教科担任制の実施
- ④教職員研修の充実・授業力量・資質の向上
 - ・令和3、4年度の校内研修で熟議した取組と成果をもとに、昨年度から2ヶ年の市研究指定委嘱校として令和の日本型教育の在り方を追究。研究の成果を本年度に発表
 - ・教師の指導言や目的意識（=ねらい）をもった対応の吟味
（振り回される対応をしない=慌てて対応し、指導のタイミングを逸しない）
 - ・人権感覚を磨き、社会的な自立を目指した言語環境の創出
（`大人、として扱う児童の呼称、「です・ます」を使っても築ける親和的な関係）
 - ・一般研による職務上の研修（ICTミニ研・OJT研人権教育等）の推進
 - ・防「災」の観点からの、生徒指導（日常行動）、学年・学級経営、生徒指導、言語環境を意識
 - ・教科等研修会、教育センター研修、教育論文等への奨励、自主研修の充実
- ⑤教職員による不祥事防止対策の徹底
 - ・一般研修やAUDITを活用した面談の実施と管理職による指導
 - ・風通しのよい職場環境づくりの推進

3 本年度の経営構想図





定期総会

小野校区運営協議会
(小野小学校運営協議会)

創立 150 周年
記念行事実行委員会

事務局(区長会等)

広報部会	青少年育成部会	地域づくり部会	健康福祉部会	防犯防災部会
<p>○野幸山幸おのまつり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プログラム作成 ・記録、アンケート <p>○小野校区運営協議会 HP管理・運営</p>  <p>【ホームページロゴ】</p>	<p>○野幸山幸おのまつり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バザー部会 ・バザーチケット作成 ・バザー会場準備 ・物品販売手配  <p>【おのまつりバザー】</p> <p>○子ども会活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市の球技大会で校区選抜メンバーで出場 	<p>○野幸山幸大運動会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・[野幸山幸校歌音頭] ・来入児種目景品準備  <p>【来入児種目】</p> <p>○野幸山幸おのまつり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企画部会 	<p>○野幸山幸おのまつり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出演出店募集  <p>【おのまつり木工体験】</p> <p>○健康づくり講座の開催</p> <p>○親子体操の実施</p>	<p>○野幸山幸おのまつり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会場部会 ・駐車場準備、整理 ・全体会場等準備 <p>○夏休み期間中</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防犯パトロール  <p>【子どもの見守り活動】</p>
分館副主事 (文化委員)	育成会・PTCA	各区分館主事	民生委員	少年指導員・交通安全協会 分団長